C－33　アイヌ民族の衣生活について（第一報）

東京家政大家政　荒井純子

目的及び方法　アイヌ民族の着用していた衣服の種類としては、獣皮衣　鳥皮衣　草衣　アツシ　レタルペ　チカルカルペ　ルウンペ　カパラミップ　チヂリ　がある彼等がこれらの衣服をどのように着用していたか　①　所持数（所持枚数　新調度）②　着装（年令　性別　季節　用途　着方）　③　保存状態（日常の手入れ、保存保管方法及び場所）について　現地調査の際古老20名より尋ねた事項をもとにして報告し、各種文献と比較して見た。　彼等の衣服のうち獣皮衣　腸衣　鳥皮衣　草衣は現在博物館などに少数残っているだけで、現存するアイヌ古老たちはほとんど着用したことがないので　アツシ以下六種の衣服を主として調査の対象とした。

結果　今回はこれ等のうち所持数及び着装について報告する。彼等の美麗な衣服は妻が愛する夫のために心をこめて作ったおくりものであるため　日本人の衣服のように沢山所持してはいない。しかし彼等の衣服の中には儀礼用のもの　日常用のもの　仕事着用のものなど使用目的を異にしてそれぞれに着用している。しかし同じ衣服であっても、地方により使用目的を異にして着用しているものもある。その着方も、我々の着物のようにきて　帯（紐）をしめるもの、羽織のようにはおるものなどある。成人男女の衣服はもとより、赤子の着衣　子供の着衣　或はあらかじめ主婦が用意しておくという夫婦の死装束など彼等なりの習慣といろいろのきまりがある。外来衣として　打掛　陣羽織　山丹服などもあるが、これらは物々交換或は褒章として得たもので、家の宝物として熊祭などの祭事のときのみ着用している。